

今治城(吹上城, 吹揚城) (県史, 百名城) (今治市通町)

今治城(いまばりじょう)は、伊予国越智郡今治(四国・愛媛県今治市通町)にあった城。昭和28年(1953年)10月9日に愛媛県史跡に指定された。

・江戸時代

慶長7年(1602年)、藤堂高虎によって築城開始され慶長9年(1604年)に完成した。普請奉行として渡辺了の名が知られている。今治城完成以前の今治の支配拠点、唐子山山頂にあった国府城であったが、より能率的な都市経営を目指すため築城された。構造は、三重の堀に海水を引き入れた特異な構造で、当時は海から堀へ直接船で入ることができるなど海上交通の要所今治らしく海を最大限に活用した城となっている。日本三大水城の一つに数えられている。

二之丸に藩主館、中堀以内に側近武士の屋敷、外堀以内に侍屋敷、城門が9ヶ所、櫓が20ヶ所と非常に広大な造りだった。慶長14年(1609年)、高虎が伊勢国津城に移封となり、同時に天守は丹波国亀山城に移築されたと伝わる。高虎自身は移封されたが今治領2万石は飛び地として残り養子の高吉が居城した。寛永12年(1635年)、高吉は伊賀国名張に移り、代わって伊勢国長島城より松平(久松)定房が入城し、以後、明治維新まで今治藩・久松松平氏の居城となった。広大な城郭は江戸260年間保たれたが、明治維新以後、廃城令により建築物は破却された。

・現代

現在は石垣と内堀が残る。

昭和55年(1980年)に5重6階の天守が鉄筋コンクリートで建てられた。天守最上階からは、しまなみ海道の来島海峡大橋が見えるなど、瀬戸内を眺望することができる。また、本丸に藤堂高虎の像がある。

平成18年(2006年)4月6日、日本100名城(79番)に選定された。

平成19年(2007年)9月、可能な限り江戸時代の史実に基づき、鉄御門(くろがねごもん)が石垣や多聞櫓5棟ともに復元された。

天守

天守は、実在するものとして慶長9年(1604年)に竣工し、慶長15年(1610年)ごろに亀山城に移されたと伝えられているので、約6年間ほどしか存在していなかったことになる。その後、今治城には天守がない期間が占め、四角形の本丸四隅には天守の代用とされた北隅櫓(2重)を初めとして3基の二重隅櫓が多門櫓によって連結されていた。特に本丸北隅櫓には、唯一、千鳥破風が一つだけ付けられ、天守を意識した外観となっていた。

天守の存否

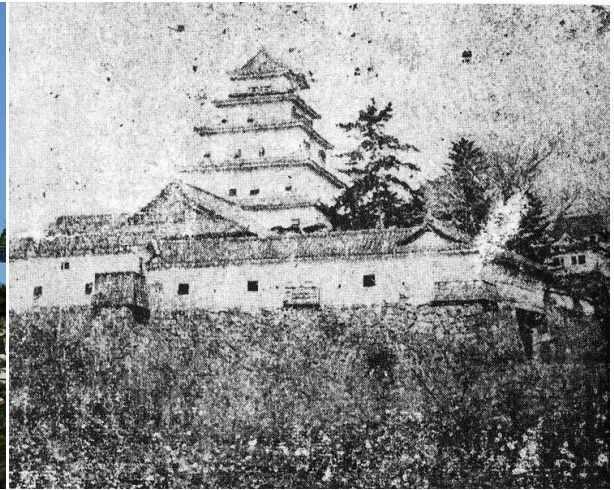
今治城の天守は、藤堂高虎によって上野城に移築する目的で解体され、慶長15年(1610年)の亀山城(丹波国)天下普請の際に徳川家康へ献上され、亀山城へ移築されたとする説がある。この説は「慶長十五年丹波口亀山城普請のことうけたまわり、且今治の天守をたてまつりて、かの城にうつす」という『寛政重修諸家譜』の記述が根拠となっている。

天守は天守台と呼ばれる基壇を造り、その上に建てられることがほとんどである。この頃は、整った平面矩形の天守台を築くことが技術的に困難であったため不整形な矩形のものに建てられていることがほとんどであるが、今治城には天守台がないと見られている。これについて、三浦正幸の著書では、天守台を築かず、本丸中央付近の地盤に直に基礎を敷き建てることで、より整形された矩形を造る必要があった層塔型天守の建造を可能にした、としている。しかし、いずれにしても天守の存在を示す一級資料や遺構等の具体的な裏づけとなるものは確認されていないため、天守が建てられたかについて結論に至っていない。

Wikipediaによる



今治城再建天守



明治5年(1872年)に撮影された亀山城本丸南面

